



写真1 麴町太田姫稲荷神社

近隣散策

麴町太田姫稲荷神社

麴町太田姫稲荷神社は、千代田区神田駿河台の太田姫稲荷神社の分社と考えられていて、両社の伝説も共通のものがあります。

太田姫稲荷神社の由緒は境内の掲示によると、「室町時代太田道灌の姫が当時流行した天然痘を病み、薬石効なく一日一日と悪化の道をたどりつつあったとき、友人に「山城国一口の里にある稲荷神社（一口稲荷神社）に祈願しなさい。どんな重い天然痘でも忽ち平癒するから」と言われ、道灌は早速同神社に参詣祈願、帰国すると姫の病は忽ち平癒した。江戸築城のとき道灌は崇敬、感謝の念で一口稲荷神社を伏見より勧請、江戸城内にお祀りしたのち、道灌に狐の姿で現れて江戸城鬼門に祀れと告げた「太田姫命」（道灌の娘ではありません）に従い、鬼門に移して太田姫稲荷大明神と奉唱するようになった。時は長祿元年（1457）の頃であった」と言われます。その後、徳川家康・江戸入府、慶長11年（1606）江戸城改築の際、城内にあった神社、仏閣を城外に移す際、太田姫稲荷神社も駿河台の淡路坂上に遷座され、その後変遷を経て現在の地に鎮座しています。

勧請元の一口稲荷神社の一口は「いもあらい」と読み、意味は、当時天然痘を「いもがさ又はへも」とも呼ばれたので、「天然痘を洗い流して直す」からきたものと解釈されています。

麴町にある太田姫稲荷神社は、このような伝説から、麴町地域における疱瘡などの病気平癒祈願の稲荷であったと考えられ、現在では地域の守護神、病気平癒、商売繁盛の神として信仰されています。

なお、千代田区には一口坂と呼ばれる坂が二か所あり、一つは淡路坂の別名（いもあらいざか）として、もう一つは九段北にあります。こちらの坂は交差点やバス停の名称にも使われていますが、今は「ひとくちざか」と呼ばれています。

参考文献

太田姫稲荷神社境内掲示

千代田区ホームページ●URL <https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/gaiyo/yokoso/saka.html>

VISIT TIYODA 千代田区観光協会●URL <https://visit-chiyoda.tokyo/>



写真2 狐像

